

イノベーション部門

【地元高校生×流域下水道】

地域に還元！下水汚泥肥料の利用・普及に向けた挑戦

長野県南安曇農業高等学校 生物工学科微生物活用コース・長野県犀川安曇野流域下水道事務所

受賞事例の概要

- 地元農業高校と流域下水道事務所が下水汚泥肥料化検討に係る協定を締結
- 下水道事務所が提供した消化脱水汚泥を用いて、高校が栽培試験を実施
- 試験結果を基に、県内流域下水道で初めて肥料登録（名称：アクアピア1号）
- 取組の成果を高校生が地域や全国に発信（日本学校農業クラブ全国大会で優秀賞）

高校と下水道事務所の連携



◆ 協定の締結



◆ 下水汚泥施用

栽培試験



◆ 試験田での生育試験(R5～)



◆ 米の収穫

取組の発信



◆ 日本学校農業クラブ全国大会発表

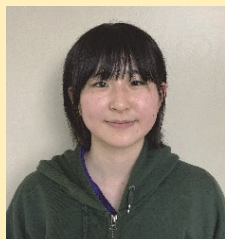


◆ 地元農家や関係者に向けた報告会

PRポイント・取組の効果！

- ・地元高校生が、地域の資源として消化脱水汚泥をそのまま肥料利用することに着目し、地元ブランド米などの作物で栽培試験を実施
- ・上記取組が各種メディアで報道されるとともに、日本学校農業クラブ全国大会で優秀賞を受賞。さらに、地元農家を対象とした報告会を開催し、取組や下水汚泥肥料について積極的に発信
- ・地元農家からは、汚泥肥料の商品化を期待する声や、「南安曇農業高校が頑張っているから協力する」といった声も上がっており、下水汚泥肥料の普及に向けてイメージアップに貢献している。
- ・引き続き地域での下水汚泥肥料の利用促進を図るため、取組を継続中

Key Person



長野県南安曇農業高等学校
生物工学科 微生物活用コース
3年 伊藤 瑞希

アクアピア1号を農家に提供できる時代が来れば、安い肥料で多くの収量を得ることができ、農家の経営を助けることができるかもしれません。今話題の「令和の米騒動」もアクアピア1号で解消できないかと考えています。実用化に向けて課題はたくさんありますが、農家に使ってもらうことを目標に今後も研究活動にがんばりたいと思います。

下水汚泥を農業利用できないかと考え、7年前から研究に取り組んでいます。研究を進める中で、下水汚泥をアクアピア1号として肥料登録できましたが、現在は産業廃棄物であるため、農家への提供が難しい状況です。私達は今後も、アクアピア1号をいろいろな方へ提供できるように、栽培試験など研究を継続したいと考えています。



長野県南安曇農業高等学校
生物工学科 微生物活用コース
3年 高取 茉帆